☆. 秋田県における調査結果概要

○秋田県内の河川とダムは、植物、陸上昆虫にとって多様かつ良好な生息環境を維持！
○天然記念物のカモシカを確認。（雄物川、子吉川）
○特定外来生物の植物を米代川で確認。
（オオハンゴンソウ、オオキンケイギク、アレチウリ）

【秋田県内 調査結果概要】

下表に2巡目調査と平成16年度調査の種数について示します。
前回調査と今回の調査を比較すると、米代川における植物の確認種数は前回調査から大きな変化は無いものの、特定種が多く確認されました。また、雄物川や子吉川では絶滅危惧Ⅰ類のオオセスジイトトンボ（昆虫）や天然記念物のカモシカ（哺乳類）など、数多くの貴重種が確認されました。このように、秋田県内の河川とダムは、植物と生物にとって良好な環境を保っており、貴重な生物の生息空間となっていることが伺えます。



表　秋田県内の河川とダムにおける調査実施項目と確認された種

河川名 ダム名	調査項目※1)					
	植物		両生類･爬虫類 哺乳類		陸上昆虫 類等	
調査年次	2巡目	H16	2巡目	H16	2巡目	H16
米代川	733	735				
	7	12				
雄物川※2、3)			36	38	2135	2490
			6	2	3	5
子吉川※3)			29	26	1388	1248
			4	1	3	2
玉川ダム					1727	1728
					22	2

注1）表中の上段の数字は確認された全体の種数を、下段は特定種の種数を示しております。
注2）雄物川の陸上昆虫類等調査の種数は、一部、平成15年度調査結果が含まれています。
注3）雄物川と子吉川の陸上昆虫等調査については、平成15年度および平成16年度に実施しており、今回あわせて報告するものです。

【各調査項目のポイント】

◆植物

米代川において平成16年度に植物調査を実施した結果、735種の植物が確認され、前回調査（2巡目）と比較すると大きな変化はありませんでした。また特定種では、絶滅危惧ⅠB類で指定されているクロビイタヤやマルバノサワトウガラシを含めた12種の特定種が確認されました。これは、今回の植物調査実施した全国18河川の中で、最も多く特定種が確認された北陸地方の信濃川24種に次いで2番目に多く確認された河川でした。

◆両生類・爬虫類・哺乳類

雄物川、子吉川において平成16年度に両生類・爬虫類・哺乳類調査を実施した結果、国の特別天然記念物に指定されているカモシカが両河川で確認されました。また、雄物川では絶滅危惧Ⅱ類で指定されているヒナコウモリが確認されました。

◆陸上昆虫

雄物川、子吉川、玉川ダムにおいて平成15年度から平成16年度にかけて、陸上昆虫類等調査を実施した結果、雄物川では2490種、子吉川では1248種の陸上昆虫類が確認さました。特定種では雄物川では絶滅危惧Ⅰ類に指定されているオオセスジイトトンボが、雄物川、子吉川の両河川において準絶滅危惧種のゲンゴロウなど、他5種の特定種が確認されました。一方、玉川ダムでは1728種の陸上昆虫が確認され、そのうち特定種はエゾゲンゴウモドキ等2種が確認されました。

オオセスジイトトンボ（雄物川）



写真：
国土交通省　秋田河川国道事務所

【外来種】

◆植物

平成18年2月1日に特定外来生物として指定された植物8種のうち、アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ3種が米代川にて確認されました。これら3種は、いずれも国土交通大臣が防除の主務大臣となっている植物の外来種です。なお、国土交通大臣が防除の主務大臣になっている該当種はアレチウリ（ウリ科）、オオカワヂシャ（ゴマノハグサ科）、オオキンケイギク（キク科）、オオハンゴンソウ（キク科）、ナルトサワギク（キク科）の5種です。いずれの種も繁殖力が旺盛で、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがあります。特に、オオハンゴンソウは、観賞用に持ち込まれたキク科の植物で、大群落になることがあり、国立公園などでは、在来種に悪影響があるとして除去されており、米代川では1巡目（平成7年度）の調査から引き続き確認されております。

表　米代川における特定外来生物（植物）の確認状況

河川名	オオキンケイギク			オオハンゴンソウ			アレチウリ		
	1巡目	2巡目	3巡目（H16）	1巡目	2巡目	3巡目（H16）	1巡目	2巡目	3巡目（H16）
米代川	×	×	●	●	●	●	●	●	●

× ： 未確認　● ： 確認



オオキンケイギク



オオハンゴンソウ



アレチウリ

写真 ： （財）リバーフロント整備センター
「川の自然をみつめてみよう②　～河川の外来種図鑑～」 より

◆両生類･爬虫類･哺乳類

雄物川、子吉川において平成１６年度に両生類･爬虫類･哺乳類調査を実施した結果、両生類ウシガエルが雄物川で確認されました。ウシガエルは、在来種への影響が心配されるとして、平成１８年2月1日に特定外来生物として二次指定された種です。在来種への影響を把握する為、今後も継続的にモニタリングを実施していく必要があります。

ウシガエル（雄物川）



写真
国土交通省　東北地方整備局
湯沢河川国道事務所

◆陸上昆虫

平成１６年度の陸上昆虫類等調査を実施した結果、雄物川、子吉川の両河川で外来種のブタクサハムシを確認しました。ブタクサハムシは東北地方全体では１９９９年頃から生息が確認されていますが、雄物川、子吉川での確認は初めてとなります。

ブタクサハムシは北米産の種で、１９９６年に千葉県で発見されて以降、ほぼ全国で確認されています。同じく外来種のブタクサやオオブタクサなどの植物を食草としており、これらの植物の分布拡大とあわせて分布を拡大していく傾向が伺えます。今後も、継続的にモニタリングを実施していく必要があります。

ブタクサハムシ
（北上川ダム統合管理所）



写真：
国土国通省　東北地方整備局
北上川ダム統合管理所